

神戸市制 100 周年記念インタビュー

ハイカラ神戸の源流



街に漂う異国の薫り
海を超えてやってきた
ファッション、洋菓子、家具…
そんなハイカラの真髄を
セピア色の思い出とともに
今、ここに再現します。

THE ORIGIN of KOBE ハイカラ神戸の源流

ハイカラ神戸の源流



戦前からハイカラ
だった「元町」

永田良一郎さん

△欧風家具 永田良介商店会長▽

三宮神社の西、大丸神戸店前に欧風家具「永田良介商店」が店を構えたのは明治5年。4代目に当たる現会長・永田良一郎さんは生粋の神戸っ子である。しかも、ゲタ履きで「元ブラ」を楽しみ、子供の頃から馴れ親しんだ元町界隈への愛着は人一倍強い――。

★市電に乗らず「ちょっと元ブラして来た」

戦争が始まったときは神戸一中の生徒でした。連隊はなかったけれど憲兵隊が湊川公園付近にあった割には、この辺りは自由で洒落た雰囲気が漂っていましたね。元町の裏通りには音楽喫茶もあって、監視の目を盗んでよく行ったものです。ジャズなど、敵性音楽と言われながらも、みんな聴いていたんじゃないですか。またコーヒーは本当によく飲みました。

当時、三宮神社の境内は今よりずっと広く、コーヒー

店をはじめ関東煮、すし、うどん、雑貨、射的、活動写真、寄席など実に70軒もの店がひしめき合っていました。なかでもコーヒー屋が最も多く、一杯が5銭、高い店でも10銭という安さ。自信を持って言えますが、当時はもちろん今でも、コーヒーは神戸が一番だと思います。

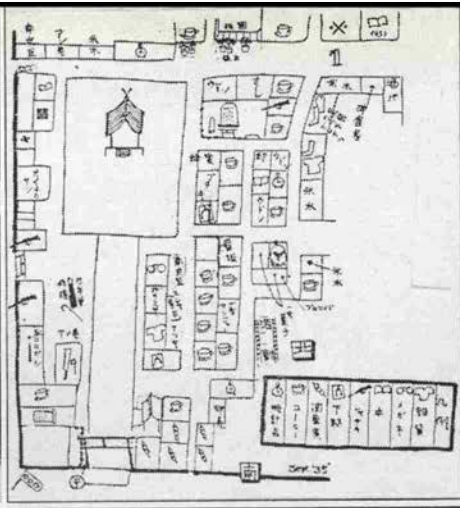
映画もよく観ました。封切りものは新開地で観ましたが、三宮神社境内の館へも何度も通ったものです。チャップリンの「モダンタイムス」「街の灯」や「オーケストラの少女」それに邦画では長谷川一夫の「雪之丞変化」なんかをドキドキ胸を躍らせながら観ていました。

新開地からは多聞通りを歩いて帰って来ましたね。市電があるにもかかわらず商店街をぶらぶらして帰るわけですが、その頃「元ブラ」なる流行語もありました。大丸を起点に元町通りやトアロードを歩くのが流行ったんです。「どこへ行って来たんや」「ちょっと元ブラして来たんや」という風に。パーマをかけた女性も多く見かけられたし、服装も割と自由に着こなしていたように思います。その点では町全体がモダンでした。

もう一つ忘れられない思い出として、昭和18年12月、神戸一中と二中の最後のラグビー試合があります。それまでの定期戦では二中に全く歯が立たず、ボロくそに負かされるのが常でしたが、どういう風の吹き回しかそのときは0対0の引き分け。校長先生に褒められたことを今でも覚えています。ラグビーは中学、予科、大学を通じて9年間やり、現在は一中ラグビー部OB会の会長をさせてもらっています。

★今こそバタ臭さを強調・演出してほしい

終戦を迎えたとき辺り一面は焼け野原でした。食糧難の混乱のなか国鉄高架沿いにヤミ市が立ち並び、ようやく復興のきざしが見えてきたのは、以前の商店が復活し出した昭和23・24年ごろ。その頃にはもう帽子を被り、手袋をして、イヤリングやブレスレットを身につけた女性たちが颯爽と歩く姿も珍しくなかったですね。



以前は町の中心部に人が住み、町内会があり、祭りには山車を引っ張り、盆踊りもやった。町としての行事があり、そこに人が住んでいるという息づかいや匂いがあった。つまりどこか温か味のある「町」でした。それが商店街という「街」に変わってしまった、綺麗になりすぎたように思います。外から入ってくる人が増える一方从前から住んでいた人が郊外へ流出していく。神戸の今昔は町と街の違い、どちらが良いも悪いもそれに尽きるのではないですか。子供の頃からずっとこの場所で暮らしてきた私たちの世代で、他所へ離れていった人は多く、地元に対する愛着の度合いも全然違うと思います。以前は仕事の場合なら生活の場だったのが、今はそうではなくなっている。中心部に人が住む、それも若

い人が住む街であってほしいですね。このことは地域の活性化を考える上でのポイントでしょう。さらに神戸全体の活性化を考えた場合、街の特色であるバタ臭さを目一杯強調すること、演出することが必要ではないかと思っています。というのは、港を通して外国文化が入ってきて、自然に出てきた雰囲気が高カラとかモダンと呼ばれるものであったわけです。ところが戦後市街化が進み、発展するにつれて、残念ながらそれが薄れてきた。他の都市と同じようになってきた。昔の良さを取り戻すというのむずかしい以上、神戸の特色を活かした、神戸らしい演出方法を今こそ考えるべきでしょう。

右上 戦前の三宮神社境内の略図(神戸っ子 昭和10年10月号より)
左上 明治39年、一家揃って記念撮影
下 昭和10年、この永田商店、店の前には市電が通っていた

THE ORIGIN of KOBE ハイカラ神戸の源流

ハイカラ神戸の源流



外国人の生活文化 がハイカラの源流

福富 芳美

△神戸ファッション専門学校長▽

★北野、トア・ロードは

外国人が住むためにつくった住宅とお店

私が住んでいる坂の北野町界隈は、異人館や高級ブティック、レストラン、おみやげ店などで賑わう観光的な街になってきましたが、昔は、神戸にやって来た外国人が、住むために北野村を拓いた住宅地でした。

だから日本人は殆んど住んでいない静かな界隈で、人通りも少なく、その道端で外国人の子供たちが時どき遊んでいるのを見かける風景は、私の好きな散歩道のひとつでした。現在の大丸神戸店のあたりから南は、まだ居留地と呼ばれて通じる頃で、外国人の商館が沢山ありました。

この商館へ、北野町の自宅から通勤する坂道として自然に出来たのがトア・ロードではなかったでしょうか。トア・ロードは、外国人がそれぞれ自国の雰囲気を持ち

こんだような、おらかなブティックや、宝石商、アクセサリー店、舶来生地屋があって、今あってもすてきなお店ばかりでしたし、神戸外国人倶楽部はトア・ホテルとしてすべてが西洋人のための建物であったのです。

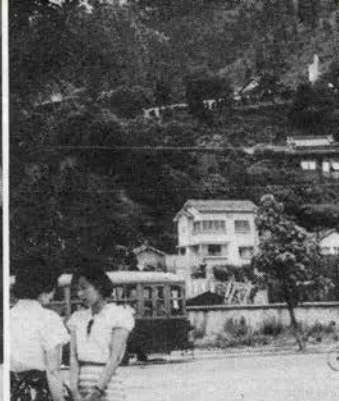
それから、生田神社の南には、ベルモード帽子店があった、私が洋服を勉強し始めた頃、よくウィンドウをのぞき、小野の洋服生地店もあって、おじさんとよくだべりました。紺谷さんという美容院が、生田神社の鳥居の東南にあって、ここは日本で初めてパーマメントをとり入れた店でした。今のダイエー東京銀行などのある山側にはステーキの甲陽館、外国人の欲しがっているイギリスのリバイ商会の、ローン服地や、縁かざりの珍しい附属品が奥深い店に積重ねられていたり、その隣りは色鮮やかな毛糸ばかり売っているマリヤ毛糸店、角にあったのがドイツ人のユーハイム菓子店だったと思います。すべてこのあたりは外国人が生活していたところで、外国人が欲しがるものが揃っていました。

元町は、神戸らしい日本人が作ったショッピング通りで中村ネル屋、松本シルクストアや、ヤタナカオ、サノヘなど今も健在な店が沢山ありましたが、シルクストアの松本などは、四十二インチ巾のシルクの巻きがずらつと並び、日本人では、とても入れないような風格がありました。

神戸がハイカラといわれるのは、イギリス、オランダ、ドイツなどヨーロッパのクラシックな服飾品や、中国テラーなどがあつたという流れと、映画、ゴルフ、パーマメントなどのはじめ物語をもつ直輸入そのまま、それは手のとどかない憧れでもありましたが、外国人のハイカラのスピリットを受けついでいるのだと思います。

★国際人として堂々とわたりあえる神戸っ子に

戦後の神戸は、やはりハイカラ神戸の源流を受けついでいることと、山と海との自然環境が、この街をファッション都市神戸として育くんできたのだと思います。



戦前から、私たちの遊びは六甲山への山のぼりや、須磨の海へ行って遊び、ことに摩耶山、再度山、布引やトウエンティクロスなどへはよくのぼりました。だから自然の中で息づくスポーツウエアに強い街です。

また、戦後のセンター街はヤングのために出来た細い通りでしたが賑やかで活気に満ちていました。昭和三十年から四十年代になって、ブティックでも洋服が買える時代になり、プレタのメーカーであるワールド・ジャパ、オールスタイルなど神戸でつくとステキという評価を全国的に得て、ファッショントウンの街開きをこの秋に迎えるという凄い成長ぶりを見せました。

北野町界隈は、最近すてきな高級ブティック街にな

り、三宮から新神戸オリエンタルホテルへのフラワールードが英国屋、芦田淳、トルソなどスケールのある店が出てきましたので、新しいファッショントリになるのではないのでしょうか。

今、神戸はスケールの小さいファッションの専門学校が多いのですが、センスは抜群、神戸っ子は大阪へ行かないで神戸で勉強してほしいし、私達も神戸の雰囲気を持つ学校でありたいと念願しています。

そして、たとえ日本語でも外国人と同じ感性で、自信を持って話しが出来、国際的に堂々とわたり会える人間を育てる町でありたいと思います。

■右上／S24／25年頃の加納町2丁目市電停留所付近。下／S25／47年頃の校舎全景。左上／S24年八千代劇場に於いて。

THE ORIGIN of KOBE ハイカラ神戸の源流

ハイカラ神戸の源流



“文化的なタウン
づくり”の視点を

内海 重典さん

△宝塚歌劇団理事・演出家▽

歌劇はもちろん、大阪万博や神戸ユニバーシアードなどさまざまなビッグイベントの演出を手がけてきた内海重典さんは、大阪生まれの神戸育ち。神戸には懐かしい思い出が一杯あるという内海さんを、さきごろ、宝塚市の閑静な住宅街にあるご自宅におじゃました。

★夏休みの楽しみは「須磨へ海水浴」

小学校5年のとき家が元町近くへ移り、20年ほど前に宝塚へ来るまでずっと神戸に住んでいました。学生の頃は、毎日元町をブラブラしないことには気が済まないくらいで、街路にスズラン灯がとるムードのある街並みは、とにかく心ひかれるほど好きでしたね。当時、三一堂の一階に評判の喫茶店があって、よく足を運んだものです。店長さんの主義で月曜はライスカレーのみ、いったユニークなお店なんかもありましたから……。

新開地の「キネマ倶楽部」で週一回、淀川長治さんが

映画の話をしていましたが、私もよく聴きに行っており、次第に芝居や映画に興味を持つようになりました。そのことが、宝塚歌劇に入った遠因とも言えなくもないと思います。

もう一つ学生時代の思い出として忘れられないのは、毎日のように須磨へ海水浴に行ったことですね。夏休みの期間だけ半額で往復できる学生割引キップがあって、何より楽しみにしていたもの。今はすっかり整備されて変わってしまいましたが、当時の海岸は自然のままで情趣豊かでしたよ。船舶の発着港として近代化された半面海に親しむことが少なくなったように感じます。

逆に北野町などは、街が整備されたことによって情緒が滲み出てきたのではないのでしょうか。異人館は前からありました。当時はあまりその存在を意識しなかったものです。それだけ神戸の街は、外国人が歩いていても違和感を覚えないハイカラな雰囲気、ごく自然に醸し出されていたということでしょう。

★人を寄せつける「工夫」がほしい

神戸の人は、再度山の早朝登山が今なお続いているのを見ても、山を愛する心に不足はないと思います。同時に港・海への愛着も強い。つまり、地形的に自然に恵まれた街であるわけで、それが反映してか、人々の暮らしにも明るさを感じられますね。ところが近代化が進んだことによって、たとえば登山道がハイキングコースとなつて、車で頂上まで登るのが普通となつてしまったように、形態が変わってきました。そして残念なことに情緒が薄れてきました。

三宮センター街もそうです。言葉が悪いけれど、戦前はずいぶんキタナイ店が並ぶ狭い通りだったのが、今や目を見張るばかりの素晴らしい商店街に変身しています。

元町商店街とつながることによって、戦前の雑然たる田舎から整然たる街へと発展したわけですが、半面、失ったものも少なくない。駅前に人力車が人待ち顔に並んでいた、あの何とも言えない風情は、今どこを捜しても見当

たりません。時代の流れを感じますね。

とはいえポートピアランドの建設に対しては、そのアイデアの良さ、見事な開発ぶりに賞讃を贈りたいと思う一人です。ファッショントウンとして位置づけ、開発しようという狙いもよく理解できるところです。その意味で多くの専門店が進出するのはいいけれども、ブラブラ歩きながらショッピングを楽しむような集合体になっ
ておらず、個々に散らばっている点が惜しい。タウンとして人を寄せつけるもう一段の工夫・配慮がほしいと痛切に感じます。

それと、神戸に文化的な施設がもっとあればいいと思

います。これからの神戸に期待することの一つは文化面の充実であり、文化的な街づくりです。「文化とは何か」を今一度根本から考え直し、その視点に基づいた方法を
探る必要があると思います。

加えて、JR東海道線は以前神戸が始点だったのが今は大阪に移ってしまったこと、あるいは名神高速道路が神戸の手前の西宮止まりとなっていることも、神戸びいきの私には「何とかならないか」と思われて、残念でな
らない点ですね。

■右上／阪急三宮駅付近で左から2人目が内海さん／左上／須磨観光ハウ
スにて(右端が内海さん)下／母校・神戸小学校を訪問(左から2人目が内
海さん)―いずれも昭和12・13年ころ―



THE ORIGIN of KOBE ハイカラ神戸の源流

ハイカラ神戸の源流



よそのやらない
ことをやる…

柴田 高明
〈神田音吉商店
取締役社長〉

日本の近代化の窓口となって欧米文化を採り入れて来た「ハイカラ神戸」。市制百年の歴史を背景に、その歴史とともに歩み続けた洋服店がある。創業明治十六年、現在、元町四丁目浜側の角に店を構える柴田音吉洋服店がそれである。近代洋服発祥の地とされるミナト神戸で百年を越える歴史を生き、業界のパイオニアとして多様な発展を遂げてきた柴田音吉洋服店。その三代目社長、柴田高明さんにお話しをおうかがいした。

★中学生の趣味やないか？

ハイカラというと、まず懐かしく思い出すのは元町の鈴蘭燈。あれは神戸独特のものだったですね。できたのがちょうど私の父の時代で、父が元町通りのみなさんと「ここに鈴蘭燈がつくんやで」なんて言いながら設計図を持って走りまわっていたのを子供心におぼえています。もう六〇年ぐらい前のことになりましたが…。

学校はね、今の神戸大学、当時は神戸商業大学と言っ

てましたが、その出なんです。私らの前は高商と呼ばれてましたけど。住居はいろいろと変わりましたが、昔は諏訪山の下に武徳殿という所がありまして、その下に住んでおりました。それから垂水の海岸の所に住んだりね。今は昔屋ですけど…。

映画が好きでね、大学時代はよく授業をさぼって新開地の映画館に見に行ったもんですよ。帝人の社長、会長をして、いま相談役をしている徳末君というのがいて、彼が相棒でね。彼も映画が好きだった。私も今でも、テレビで昔の映画をやったりするとビデオでとって楽しんでるんですよ。

それとヨットですね。これも六〇年程前のことになりましたが、父がヨットを持ってまして、日本人では二隻しかなかったんじゃないかな。いま乗ってるのが戦後から数えて四隻めぐらいたと思いますね。後はキャンピングカーで走りまわったり、友達からは「お前、いつまでたっても中学生の趣味やないか」と笑われるんですが…。

★ハイカラは本当にはずかしい！

西洋との接点と言えば、やはりオリエンタルホテルなんかはハイカラな接点だったでしょうね。元町通りの西洋人がたくさん歩いてましたし。洋服の技術としても何しろ明治十六年という時代ですから、私の祖父父も、もちろん西洋人から学んで始めたんですよ。まあ、横浜にしる神戸にしる開港地ということとそれだけたくさんものが上陸してこれたんですね。

父がフランスに長く留学しておりました、ハイカラでしてね。恥かしい思いをしたことがありますよ。スコットランドの服があるんですが、それを僕と妹に着せるんですよ。それを着て歩いてみると西洋人が手をたたいて喜ぶんです。小学校に入るか入らないかの時ですから時代を考えるとね、本当に恥かしかった。

★だんだんバカになって来るとちゃうか？

しかし、私どもの業界から言いますと、スタイルも何も西洋人のものをそのまま持ちこんでも日本人に合うわ



けでなし、といって全然、外国の流行を無視して日本人にしか通用しないものを作っているというのがないの
で、唯々、外国のものをそのまま持ち込むんじゃない
に、吸収したものをうまく日本化してゆくことが大切な
ですね。あくまでも国際レベルに達した所ですね。
でも、私どもの所は出所がそもそも注文洋服という特
殊なものをやるものですから、事業としてはそれで
一貫してゐるんです。何か特殊で人のやらないもの、高級
なものを扱ってるものですから、あまり事業に動きがで
てきません。しかし、その「よそのやらない特殊なもの
をやる」というのがうちの方針であり、私の趣味にも合



ってますね。だから銀行なんか来て、「百年やって、
三代続いて、初代、二代、三代とだんだんバカになって
来てるんところがいますか」と言われて大笑いすることが
あるんですよ（笑）。その点では規模はいつまでたつて
もたいして大きくなりませんなあ。

ただし、仕事を続けて行く以上、どうしても最近では東
京が重点になって来ましたね。ただ、東京に行くからと
言って、この神戸は忘れません。神戸の人間であって、
東京で活躍するということを忘れてはなりませんねえ。
写真・上／三代目高明社長（左）と弟の植三さん。下左・明治三十七、三
十八年頃、元町三丁目山側にあった栄田吉吉商店。下右／大正七年に作ら
れた藤田男爵着用のフロックコート。

THE ORIGIN of KOBE ハイカラ神戸の源流

ハイカラ神戸の源流

“現代フランス料理は五味五色”

石坂 勇さん

△オリエンタルホテル・13代目総料理長▽



オリエンタルホテルが伊藤町百二十一番館に、仏人ルイ・ピゴ氏によって開業されたのが明治十五年。以来、我が国一流のホテルとして神戸に君臨し、その雅趣豊かな建物は今もお歴史を刻み続けている。当ホテルで二十年、総料理長を勤める石坂勇さんにおうかがいした。

★“これでは戦争も負けるわい”

戦災でオリエンタルホテルは焼けて跡形もない頃、今の神戸倶楽部がある場所に、進駐軍の将校の宿泊所に働いていた友人の紹介で、今のオリエンタルホテルの支店にあたる“グロスターハウス”と呼ばれた英人、豪人、ニュージールランド人の休息設備所（現在はカナディアンスクールが建っている）にお世話になりました。もともとキッチンが小さいのになくさんの方がこられますので、裏にキッチンを増築したんですが、冷房も暖房もありませんし、山の高台に面しているんでかなり冷えるん

です。そこへ毎朝、朝の五時から下駄履きで、当時の石炭ストーブに前日の灰（石炭ガラ）をおとして、木を燃やして、石炭をいれていく作業で、寒さが身にしみたことを今だに覚えていてます。

料理を通じて西洋と接した中で、特に“物量の違い”というのを感じました。要するに食べ物、着る物にしろ例えば軍隊にしても、私達が日本の軍隊の人を見ていた以上に物も、量も非常に豊かだなぁと思いました。中でも私がおりましたグロスターハウス、次に移ったアメリカ系の所ではそれ以上に“物量の違い”を思い知らされて、子供ながらに“これでは戦争も負けるわい”と思っただけもありました。

★トンカツ、串カツ、戦後の洋食

神戸市制百年にちなんで、『一世紀の食卓』と題して旧居留地時代のメニューを再現したんですが、昔の味は現代とくらべて幾らか濃く、濃縮なんです。現代の方はあまり体をハードに使うことを必要としませんので塩分もとらなくていい、脂肪もとらなくていいんで、おのずから淡泊な味になるんですね。それと料理に“派手さ”がない、例えば我々が教わった時には、一つの豆にしてもよく味をしみこませる。そのためによく煮なければいけない、そうすると自然に豆の色もあせてきます。ところが、現代は味もさることながら、五味五色、色彩感覚も重要視されます。本来、食べておいしいのは昔風の方なんです、それだけ舌の感覚も変わってきたんです。

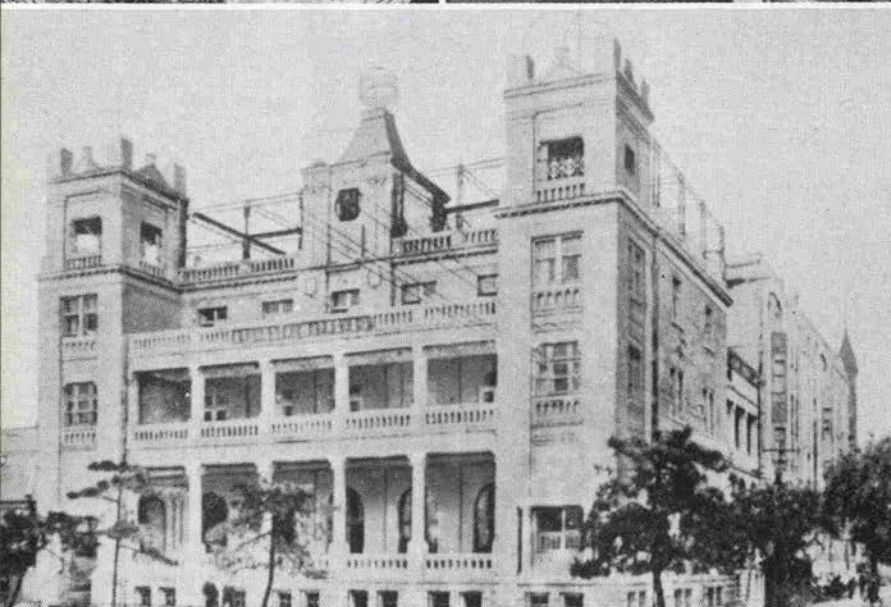
終戦後、配給制度があった時代に、ホテルは特別に申請を許可されたんですけど、一般の店では派手な商売ができなかった。それがだんだん解かれていって、あの当時トンカツ、串カツ等の日本風の洋食が中心になって、戦後の洋食が発展していききました。今日の様にフランス料理が重要視されるようになったのは、だいたい二十年前ぐらいからなんです。有名なフランスのシェフが、バ



カンスを兼ねていろんな講習会をしてまわったのを見て
若い日本人が影響をうけ、どんどん海外へ出て行き、勉
強して帰ってこられた方が小さなビストロを構えたのを
ボツボツ見られるようになりました。
しかし、まだあの時代には日本人向けのものが少なく
て一部の人しか味わえなかったようです。

★ホテル競争激化ノ

ポートピアホテルができるまでは、私どもオリエンタ
ルの独占状態であつたんですが、六月にはホテルオーク
ラも参入してきますし、今以上に競争が激しくなること



が予想されます。今までもそうですが、これからはもつ
と多勢に負けぬよう研究し、勉強する事が要求されてき
ます。またオリエンタル伝統の味を再現し、加味してゆ
こうと考えております。

最近交通ルートも改善されて、観光も活発化してお
り神戸にこられる方々の舌もこえてきているように思
います。それに、地元に住んでおられる方々にグルメがた
いへんに多うございますので、ますます勉強が必要で
すね。

■写真右上ノ当時のキッチン風景

左上ノ石阪さんの作品
下ノ明治40年、建設されたホテル

THE ORIGIN of KOBE ハイカラ神戸の源流

ハイカラ神戸の源流



ハイカラにこだわったファッショナブルな人生
妹尾 光子さん

△兵庫県洋裁学校連盟・常任理事△

ハイカラな伝統を受け継ぐ、KOBÉファッション。現在、兵庫県洋裁学校連盟に入られて20年あまり常任理事の妹尾光子さんは、子供のころから、ハイカラなお洒落さんだったという。当時のお洒落ぶり、今の神戸に対するイメージ等を語っていただいた。

★生粋のハイカラ娘

私の生まれたのは大阪・戎橋、実家は紙の間屋をしており「とうちゃん」と呼ばれていました。ヨーロッパのお人形みたいなハイカラな格好をしていたのですが母が私にそういうお洒落をさせていたのです。

大阪から汽車に乗り、元町で降りて「子供屋」、「双葉屋」といった子供服のオートクチュール店へオーダーし、帰りがけに支那料理を食べたことを鮮明に憶えています。私のところは一筋曲がるとお茶屋があり、もう一

筋曲がれば芝居小屋の裏手に出るといった下町。まわりの友達が黒朱子の襟をかけている中に、私が神戸でつくった服を着て、ゲートルをして学校へ行ったら、それはもうびっくりされましたね。服装だけがハイカラではなく英語の勉強も4才の時からしていました。東京から教師を呼び今橋ホテル（現・大阪ホテル）のダイニングルームを借り切って、週1回のレッスンに人力車に乗って通っていました。

★神戸ファッションの原点

昭和6年に母が喘息にかかり、転地療養の為に、神戸・岡本に越してきました。近所に作家・谷崎潤一郎先生のお宅があり、先生が大阪の倉に置いてあった琴や古い資料を探したり、母に小説中の大阪弁のチェックをうけたりして、とても親しくしていただきました。

私の娘時代は、毛皮のコートなども手作りで「佐藤装店」、「田畑洋装店」といった店で作った服を競って着たものです。「佐藤洋装店」は亡命貴族のロシア人がトアロードにだしていたオートクチュールの店で勉強をしていた人が経営して、「田畑洋装店」は横浜の人の店でした。当時をふり返ると、まさに「いい時代」をすごしたものだと思っています。ハイカラな子供時代、いろんなお洒落をした積み重ねが身につき、色調や芸術に関するセンスが培い、ハイカラな目をもつようになったと思います。それが今の職業にいつのまにか強い影響をうけたのだと思います。

★ムードを忘れたKOBÉ

今の神戸は、開けすぎてムードが無くなってしまったように思います。若い人たちはエキゾチックな雰囲気を感じるかもしれませんが、本来の神戸らしさが消えてしまった哀しさがあります。発展する為にはしかたがないのかもしれませんが、西洋的ないい建物も次々と壊れていきます。

買物をするにも、昔はその雰囲気を楽しんでましたね。たとえば、生地を買いにしても、木造りの階段が上がって行く：そこには本当にいいものがありました。今はプレタポルテも、オートクチュールもワンパターン。新しくなりすぎて、ハイカラではなく「モダン」になってしまったのです。そしてみんながモダンを求め、街自体が個性を失ってしまったように思います。

★今、試練のとき：

最近、洋裁学校の校長先生たちが、「これからどうしようか」と弱音を吐くことがあるのです。それらの学校

の中には専門学校にしないものもありますから。大手企業にデザイナーを派遣するなら、それもいい。でも今、手作りが見直されています。昔をふり返る時代がきているのです。あの時代に、学校をつくり、勉強をしたということは大へん有意義なことです。厳しい現状をがんばって、のりこえてほしい。これは、個人のことだけにとどまらず、神戸のためにでもあることなのです。

昭和6年、岡本にて(右)、大正8年、子供屋で作った服をきた妹尾光子さん(左)、昭和25年ごろ小川洋裁学院のファッションショー(下)



THE ORIGIN of KOBE ハイカラ神戸の源流



この秋WFF89を成功させよう
ファッション文化は神戸から

<p>カネボウ ベルエイシー(株)</p> <p>代表取締役社長 菅 和昭</p> <p>神戸市中央区三宮町1-2-1 三神ビル ☎ (078) 392-2101</p>	<p>株式会社 パール</p> <p>代表取締役 松岡 賢蔵</p> <p>神戸市中央区生田町3-1-18 ☎ (078) 232-3333</p>	<p>竹馬産業株式会社 メルアビート事業部</p> <p>取締役社長 竹馬準之助</p> <p>神戸市中央区浜辺通2-1-30 三宮国際ビル ☎ (078) 231-7700</p>
<p>K・F・A (協)神戸ファッション アソシエーション</p> <p>理事長 木口 衛</p> <p>神戸市中央区港島中町6-1 ☎ (078) 302-6671</p>	<p>株式会社 モード・リンダ</p> <p>代表取締役社長 三浦 幸衛</p> <p>神戸市中央区旗塚通7-1-11 ☎ (078) 242-4141</p>	<p>株式会社 バンボーレ</p> <p>取締役社長 山中 健</p> <p>神戸市中央区生田町1-1-22 ☎ (078) 222-1131(代)</p>
<p>K・F・C</p> <p>会長 中西 省伍</p> <p>サロン・ド・モード 中西</p> <p>神戸市中央区下山手通3-12-17 ☎ (078) 321-3707</p>	<p>株式会社 マミー</p> <p>取締役社長 東條 隆裕</p> <p>神戸市中央区磯辺通2-1-1 ☎ (078) 242-3811</p>	<p>マドンナ グループ</p> <p>代表取締役 清水 善之</p> <p>神戸市中央区小野柄通6-1-9 ☎ (078) 251-6761</p>
<p>K・F・S</p> <p>会長 中島 正義</p> <p>神戸市中央区筒井町3-7-11 ☎ (078) 231-1666</p>	<p>婦人服ソーイングメーカー (株) 神港ドレス</p> <p>代表取締役 荒津 正美</p> <p>神戸市灘区大和町3-1-13 ☎ (078) 851-0035(代)</p>	<p>株式会社 モードサン</p> <p>代表取締役社長 上垣 康雄</p> <p>神戸市中央区御幸通4-8-2 ☎ (078) 251-2100</p>

Pulchrade-WORLD FASHION FAIR '89

“プルクラード”ワールド・ファッション・フェア89美感遊創の祭典

「90年代への期待」を総合テーマに十一月十六日～二十六日まで神戸・大阪・京都で開催されるワールド・ファッション・フェア'89。

通商産業省の提唱のもとに、美感遊創の祭典として全国ファッション団体为一体となつて推進する、世界で初めての国際的ファッションイベントです。

Pulchrade (プルクラード) とは「美しいものの集まり」の意味で、WFF'89はファッション

ションー生活文化に関わる美しい人々や品々が多く、国から京阪神に集まり、そこから世界に向つて最新の情報が発信されます。

神戸ではファッションフェスティバルで日本やスペインの新進気鋭のクリエイターやデザイナーが集まつて交歓し、ポートアイランドのファッションタウンでは三十八企業が進出を終えて街開きイベントが繰り上げられ、神戸の街のレストランや料理店では神戸グルメ・フェアが展開されます。

				1989年11月											
		イベント	会 場	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
				木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
神戸	神戸 ファッション・ フェスティバル	ワールド・ファッション・ コレクション	アシックスアトリウム・ ホテルオークラ神戸			*	*	*							
		バイヤーズ・ミーティング	ワールド記念ホール			*	*	*							
	KFT 街びらき イベント	ブレイベント (スポーツフェスティバル)	11/30：ワールド記念ホール												
		セレモニー・パーティ・ ライブマルチメディアコンサート	市民広場・ポートピアホテル			*									
		企業・ストリートイベント	タウン内企業・ストリートほか			*	*								
戸	神戸グルメ・ フェア	KOBEファッションパーティ	ポートピアホテル			*									
		ブレイベント (シンポジウム＋プロムナード)	3/16 シンポジウム 3/22～24 プロムナード												
		グルメ・シンポジウム	神戸商工会議所	*											
		グルメ・プロムナード	主要レストラン・料亭		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
		グルメ・パーティ	主要ホテル・旅館			*	*	*	*	*	*	*	*	*	
京 都		グルメ・KOBÉ・セレクション	サンボーホール				*	*	*						
		ファッション・シンポジウム	国立京都国際会館		*										
大 阪		WFF'89記念祭	大阪城ホール				*								
		ワールド・ファッション・ コレクション	大阪城ホール、マイドーム おおさか、MIDシアター								*	*	*	*	
		ワールド・ファッション・ トレードフェア	インテックス大阪 マイドームおおさか								*	*	*	*	

国際行事 1989年11月18日<土>▶▶26日<日>

都市行事・協賛行事 1989年4月▶▶11月

主催 ワールド・ファッション・フェア神戸推進協議会

この秋WFF89を成功させよう
ファッション文化は神戸から

学校法人 田中千代学園
田中千代服飾専門学校

学 校 長

田中 千代

芦屋市大原町 121-15

☎ (0797) 31-0601

学校法人 行吉学園
神戸女子大学
神戸女子短期大学
神戸女子大学瀬戸内短期大学

理事長・学長

行吉 哉女

本部 神戸市中央区中山手通 2-23-1

☎ (078) 231-1001(代)

学校法人 福富学園
神戸ファッション専門学校

学 校 長

福富 芳美

神戸市中央区国香通 6-7

☎ (078) 241-8611(代)

学校法人 横田学園
神戸服装専門学校

学 校 長

米谷 玲子

神戸市灘区永手町 2-3-17

☎ (078) 851-3947

有限会社 装 苑

代表取締役社長

藤井まつ子

神戸市灘区将軍通 3-4-24

☎ (078) 881-0907

オートクチュール&
プレタソーイング
モード アトリエ サナエ

栗山 早苗

神戸市東灘区森北町 4-4-12-112

(078) 452-8777

教室・オーダー
着物のルネッサンス
モード メイト ミチコ
藤井美智子

神戸市東灘区本山北町 5-13-11

☎ (078) 431-8051

オートクチュール
エミ洋装店
張 恵美

神戸市中央区旗塚通 1-1-18

☎ (078) 241-3078

株式会社 マルダイ

代表取締役社長

大内 信行

神戸市中央区三宮町 2-11-1-122

☎ (078) 331-0064

(株)
MEN'S HOUSE GROUP

中村 元明

神戸市中央区三宮町 1-8-1-116

☎ (078) 331-3915

ファッションパーク
センタープラザ 3F
さんプラザ 2、3F

神戸市中央区三宮町 1-9-1-305

☎ (078) 332-1698

K・F・Mファッションショー
10月4日神戸ポートピアホテルで開催

K・F・M

会 長

藤本ハルミ

神戸市中央区山本通 2-13

マーガレット

☎ (078) 242-5690